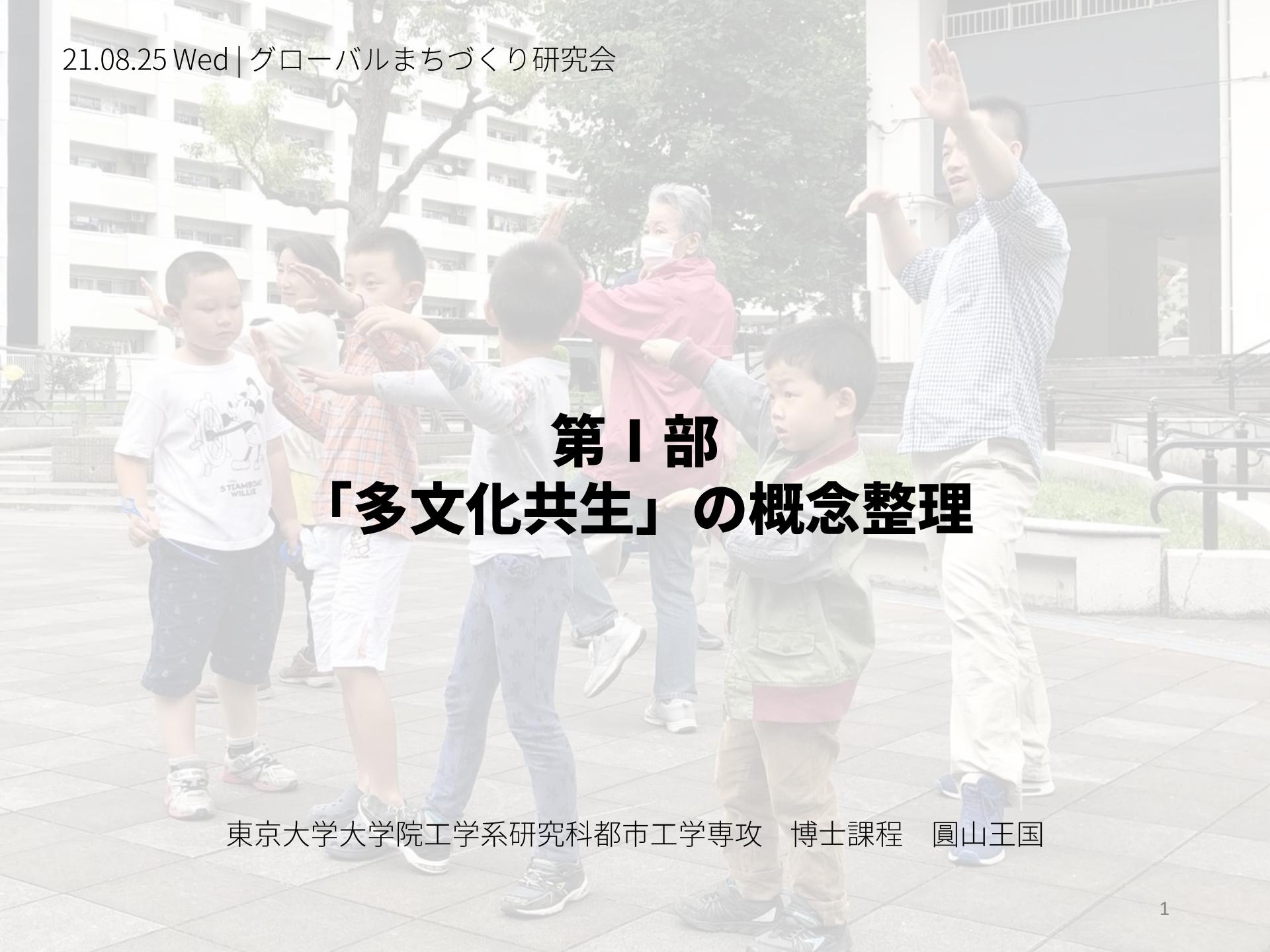


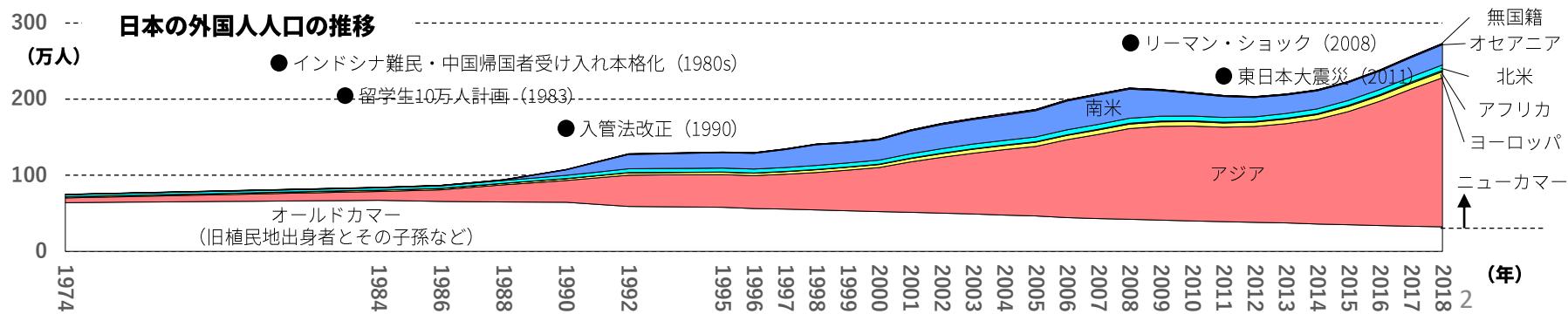
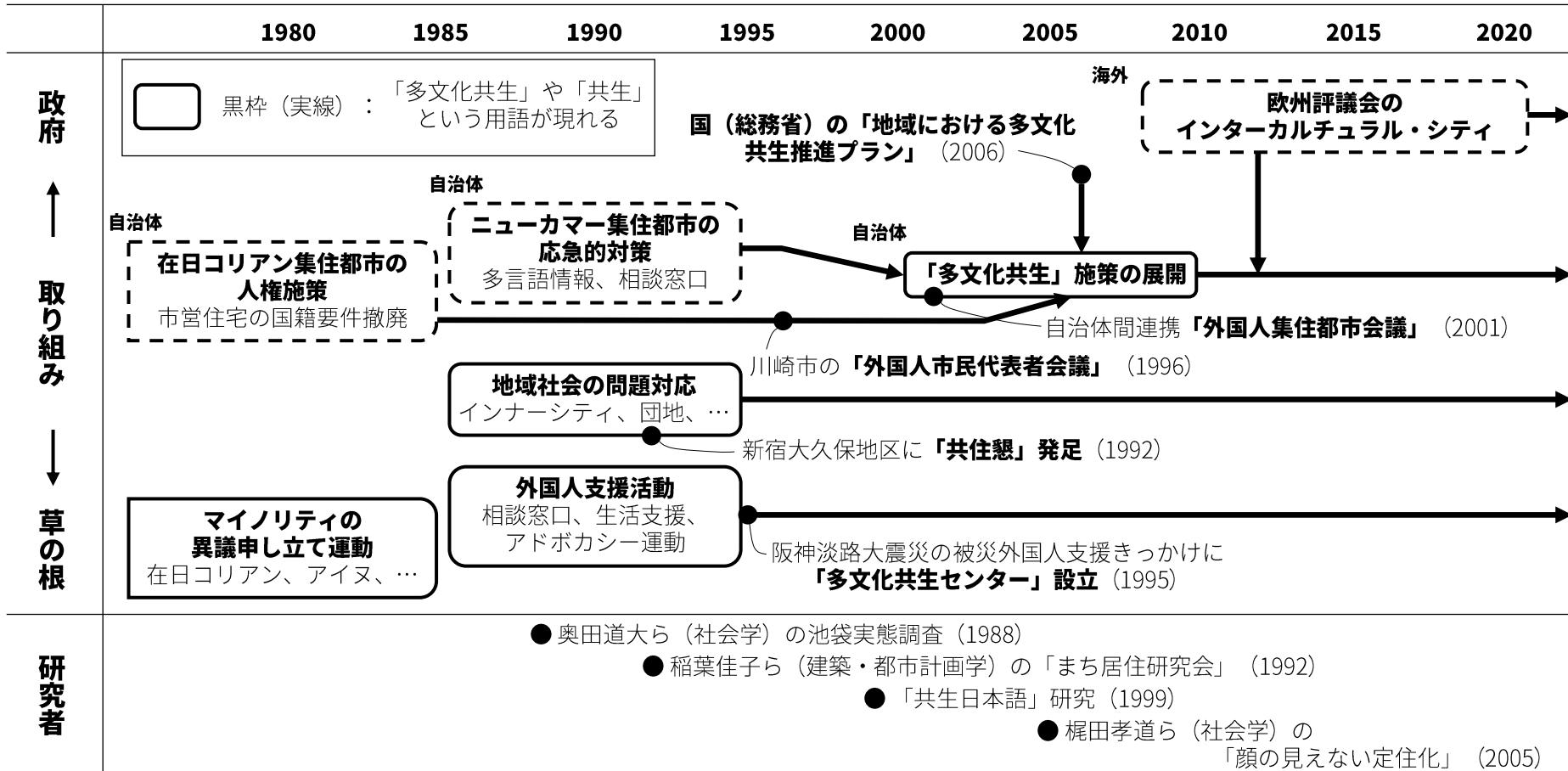
21.08.25 Wed | グローバルまちづくり研究会



第Ⅰ部 「多文化共生」の概念整理

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程 圓山王国

「多文化共生」概念の形成



異議申し立て運動における「多文化共生」

① 花崎皋平の問題提起 (1970年代)¹⁾

- アイヌの反開発運動の支援者、文筆家
- マイノリティ当事者の生き方に学ぶ形で「共生」概念を提起

- 人と人、人と自然の間に生まれうる加害・被害、支配・従属の関係をなくしていきたいという思いを表す言葉として使用
- マジョリティが自身の加害性を自覚する必要性を指摘
- コミュニケーションを通じてネットワークをつくり自己決定権を主張する草の根運動に、既存の政治社会システムの枠組みに批判を向け、「共生の倫理」が生まれる可能性を発見

② 川崎市桜本地区における在日コリアンと日本人による公民権運動 (1980年代)²⁾

- 在日コリアンの就職差別闘争、教育保障の要望
- 運動には、全共闘世代の日本人も参加、在日コリアンと共闘
- 在日コリアン・日本人双方の自己変革で形成された水平的関係のもと、地域社会の中で理念構築

- “共に生きる”ことを「異質なものを互いに尊重し、認めあうことの上に成り立つことをめざす、民族として自立した関係を求めるもの」と定義

外国人支援活動における「多文化共生」

① 「多文化共生センター」（1995年）³⁾

- 阪神淡路大震災の被災外国人支援をきっかけに設立
- 全国に「多文化共生」の用語が広がるきっかけ⁴⁾

- ・「国籍、文化、言語などの違いを越え、互いを尊重する」と定義
- ・「多文化共生」を「外国人支援」と区別して、外国人と日本人の間を「支援する側」「される側」と分けるのではなく、ともに影響し合い、ともに変化する関係と位置付けている

② 地域日本語教育における「共生日本語」（1999年～）⁵⁾

- 外国人が日本語を学ぶ際、日本語を「所有」する教師と非母語話者が対等な立場で対話できず、結果的に「日本人の規範」への同化を強いてきた
- 同化要請として機能しない日本語教育のあり方を探求

- ・共生日本語は、多様な言語・文化背景を持つ者同士のコミュニケーションのための言語的手段のひとつ、接触場面で使われる日本語
- ・母語話者は「所有権」を主張できず、母語話者と非母語話者のどちらも対等な学び手
- ・母語話者と非母語話者が一緒にコミュニケーションを実践し、その場その場で創造される

地域社会の問題対応における「多文化共生」

① 奥田道大（社会学）の「共生」論：大都市インナーシティ（1990年代）^{6), 7)}

- 1980年代後半以降、新宿・池袋の実態調査

- ・共生の作法：各自の立場、利害を一方的に主張することなく、微妙な間合いと距離をとりながらも、ともに住み合う
- ・共生の作法を身につけるには、個別の齟齬や葛藤、紛争の問題を（相手側に責任を押しやるのでなく）一旦自分側に引き受ける、生き方の自己変容（文化変容）の問題を避けられない。

② 都築くるみ（社会学）の「共生」論：団地（1998年）⁸⁾

- 1990年代以降、保見団地の実態調査

- ・「一つの社会で、複数の異質な文化集団が、相互の生活習慣や下位文化を理解し、お互いに尊重しつつコミュニケーションを持ち、対等な関係を形成している状態」と定義

③ 梶田孝道ら（社会学）の「統合」論（2005年）⁹⁾

- ・政治経済的領域での格差解消を重視
- ・「共生」論は、問題の背後にある政治経済的格差に鈍感であると、批判

上からの「多文化共生」

① 総務省「地域における多文化共生推進プラン」(2006年)¹⁰⁾

- 自治体の多文化共生施策策定のためのガイドライン

- ・「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく」と定義

② 総務省「多文化共生事例集」(2017年)¹¹⁾

- ・「外国人住民を『支援される側』として捉えてきた従来の見方を超えて、外国人住民の持つ多様性を資源として地域活性化やグローバル化に活かしていくという視点が重要」と指摘

地域における多文化共生推進 プランの施策項目↓

(1) コミュニケーション支援
① 地域における情報の多言語化
② 日本語及び日本社会に関する学習支援
(2) 生活支援
① 居住
② 教育
③ 労働環境
④ 医療・保健・福祉
⑤ 防災
⑥ その他
(3) 多文化共生の地域づくり
① 地域社会に対する意識啓発
② 外国人住民の自立と社会参画
(4) 多文化共生の推進体制の整備
① 多文化共生の推進を所管とする担当部署の設置や府内の横断的な連携
② 地域における各主体の役割分担と連携・協働

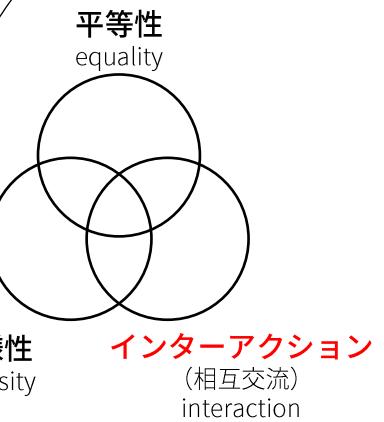
海外の都市政策の影響：インターナショナル・シティ

欧州評議会「インターナショナル・シティ・プログラム」(2008年～)¹²⁾

- 文化的多様性を、都市の活力や革新、創造、成長の源泉とする理念と政策を推進
- 自治体のネットワーク、欧州内外の147都市（2021.03時点）が参加（2017年に浜松市が参加）

インターナショナル・シティ

- ・多様性を資源と捉え、すべての文化は公共空間で互いに接触し変容
- ・多様性やアイデンティティの尊重を働きかける
- ・偏見や差別と闘い、都市の制度やサービスを多様なニーズに適合、平等な機会の確保
- ・専門職との連携、市民参加を得て、多様なグループの混交と相互作用を奨励
- ・紛争や暴力を防ぎ、住むうえでも投資するうえでも、安全で魅力的な都市



インターナショナリズムの3原則 ↑

移民政策の4類型 ↓

ゲストワーカー政策 (Guest worker policy)

- ・移住者は一時的労働力。短期的で移住者の地域社会への影響を最小限にする対策が取られる。

同化主義 (Assimilationism)

- ・移住者やマイノリティは永住者として受け入れられるが、早く同化することが想定され、受け入れコミュニティの文化規範との違いは奨励されない。

多文化主義 (Multiculturalism)

- ・受け入れコミュニティの文化規範との違いは、法や制度によって奨励、保護され、反人種主義活動によって支援される。しかし、差異の過度な強調によって、住民が集団ごとに分断してしまう可能性もある。

インターナショナリズム (Interculturalism)

- ・受け入れコミュニティの文化規範との違いを有する権利は法や制度で保障される一方、共通の立場や相互理解、共感を生み出す政策、制度や活動が高く評価される。

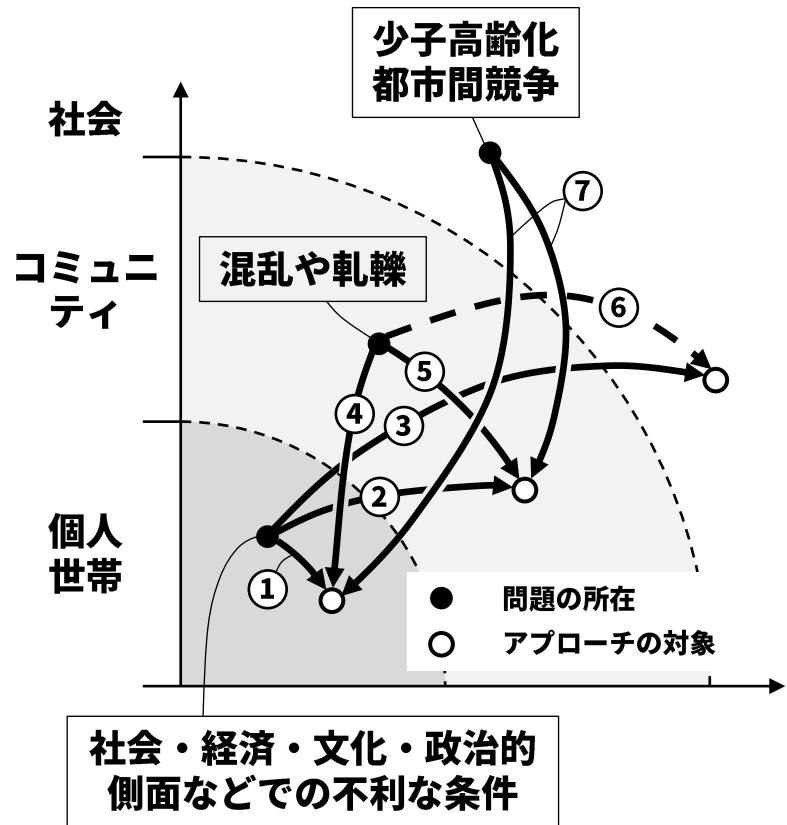
経 経済的権利の保障

経 社 社会的・市民的権利の保障

経 社 文 文化的権利の保障

経 社 文 相
相互交流 (interaction) 促進、
地域共通の課題への取り組み

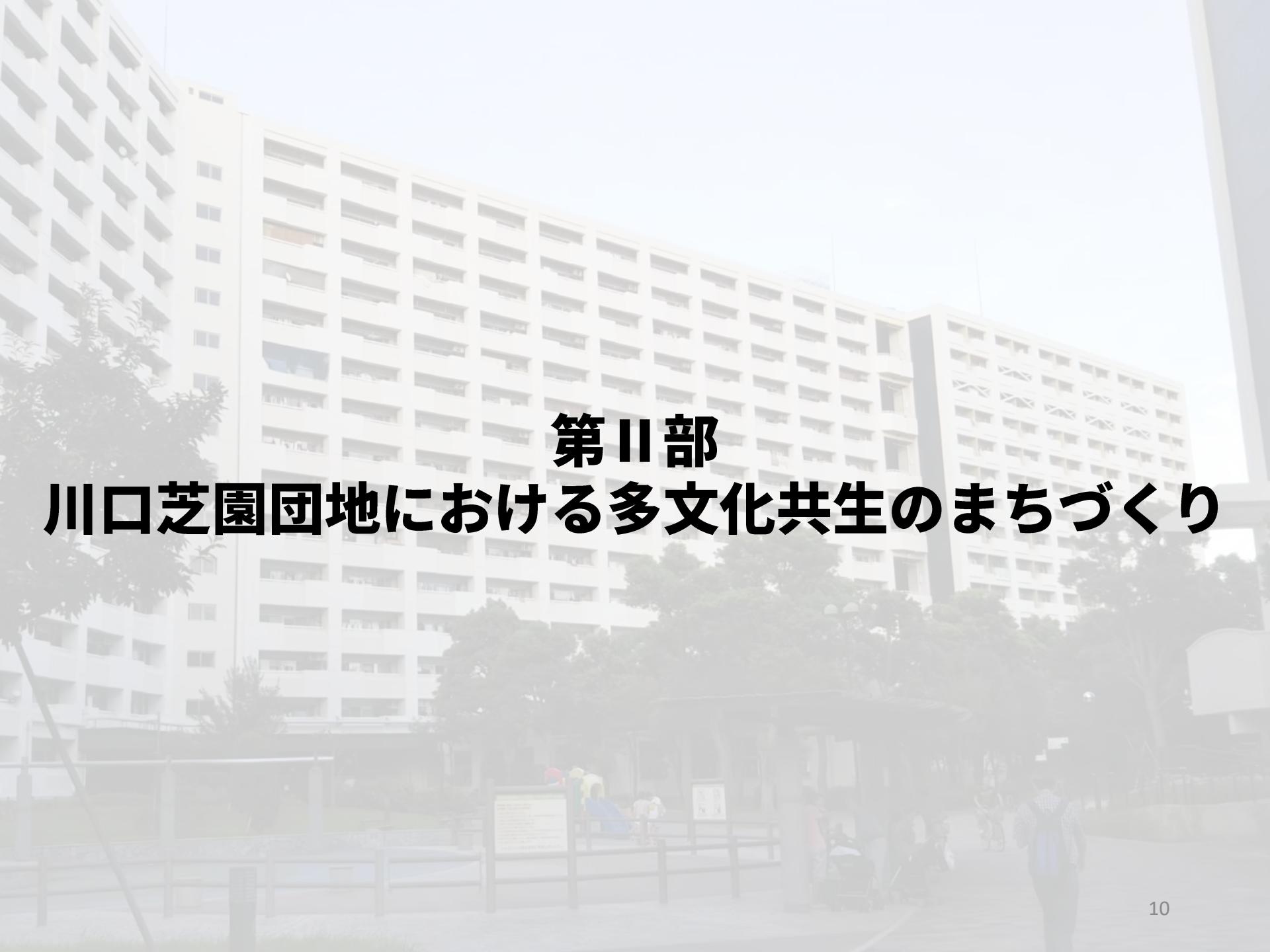
「多文化共生」の概念整理



	●	○	アプローチの内容
①	個	個	<ul style="list-style-type: none"> 平等の確保 (生活支援など) 多様性の尊重
②	個	コ	<ul style="list-style-type: none"> 対等な立場でのコミュニケーション (対話、連携、協働) を通じた相互変容 社会参加の促進、ネットワーキング
③	個	社	<ul style="list-style-type: none"> 社会変革 意識啓発 多様な主体の連携
④	コ	個	<ul style="list-style-type: none"> 情報提供 (同化にならないよう注意)
⑤	コ	コ	<ul style="list-style-type: none"> 相互交流 (相互理解や問題解決回路の確保)
⑥	コ	社	<ul style="list-style-type: none"> 梶田らの「統合」論 (多文化共生での言及は少ない)
⑦	社	個 コ	<ul style="list-style-type: none"> 多様性の活用

参考文献

- 1) 花崎皋平. (2002). <共生>への触発: 脱植民地・多文化・倫理をめぐって. みすず書房.
- 2) 金侖貞. (2011). 地域社会における多文化共生の生成と展開, そして, 課題. 自治總研通卷, 392, 59-82.
- 3) 田村太郎, 北村広美, & 高柳香代. (2007). 多文化共生に関する現状および JICA での取り組み状況にかかる基礎分析.
- 4) 山脇啓造. (2006). 多文化共生社会に向けて (特集 多文化共生と地域社会). 月刊自治フォーラム, (561), 10-15.
- 5) 岡崎眸, 野々口ちとせ, 岩田夏穂, 張瑜珊, & 半原芳子. (2007). 共生日本語教育学.
- 6) 奥田道大. (2004). 都市コミュニティの磁場: 越境するエスニシティと 21 世紀都市社会学. 東京大学出版会.
- 7) 奥田道大, & 田嶋淳子. (1995). 新版・池袋のアジア系外国人.
- 8) 都築くるみ. (1998). エスニック・コミュニティの形成と「共生」豊田市H 団地の近年の展開から. 日本都市社会学会年報, 1998(16), 89-102.
- 9) 梶田孝道, 丹野清人, & 橋口直人. (2005). 顔の見えない定住化. 名古屋大学出版会.
- 10) 総務省. (2006). 地域における多文化共生推進プラン
- 11) 総務省. (2017). 多文化共生事例集 - 多文化共生推進プランから10年 共に拓く地域の未来 - .
- 12) 山脇啓造・上野貴彦 (2021). 自治体職員のためのインターナルカルチュラル・シティ入門. 明石書店



第II部

川口芝園団地における多文化共生のまちづくり

大宮方面



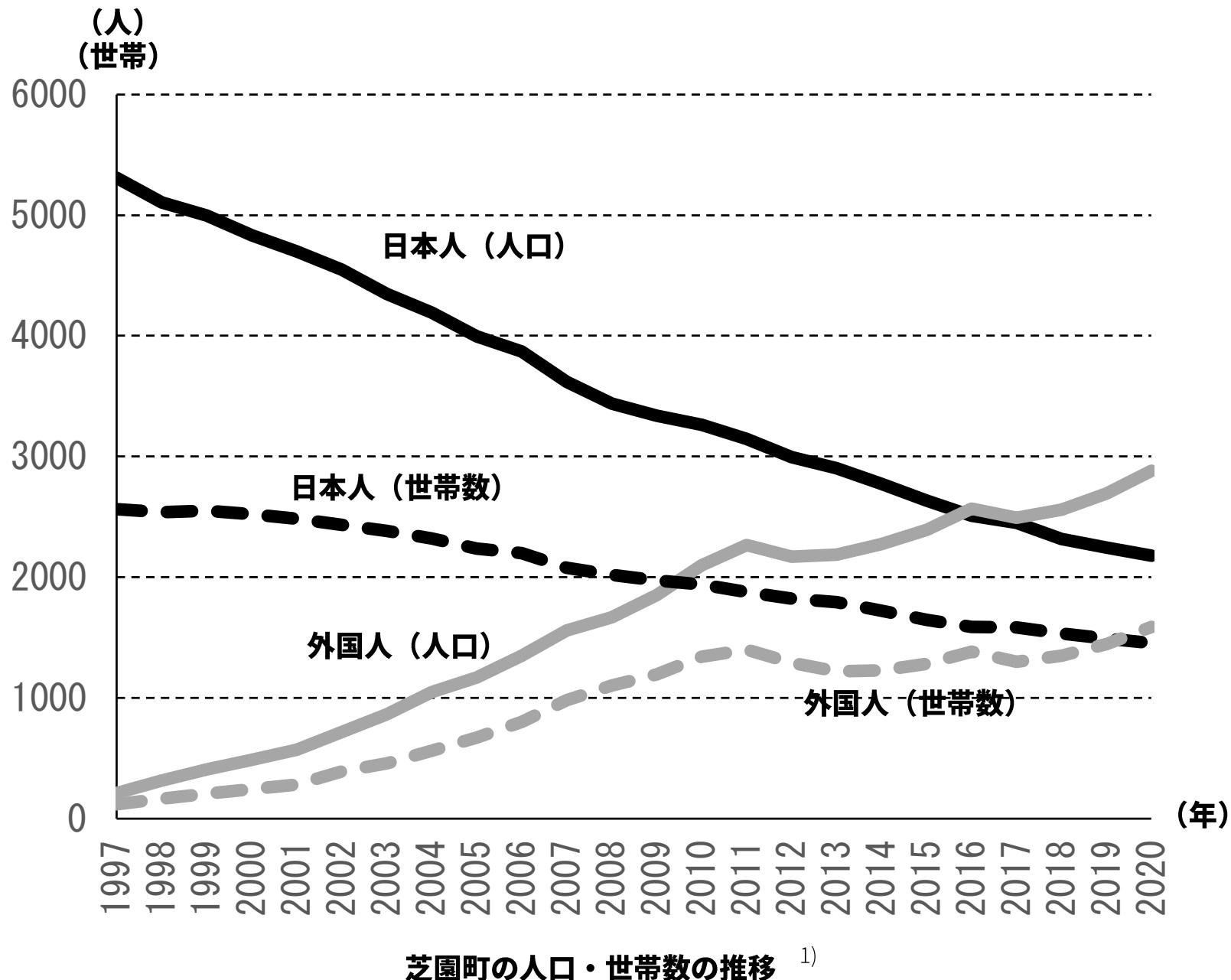
JR京浜東北線

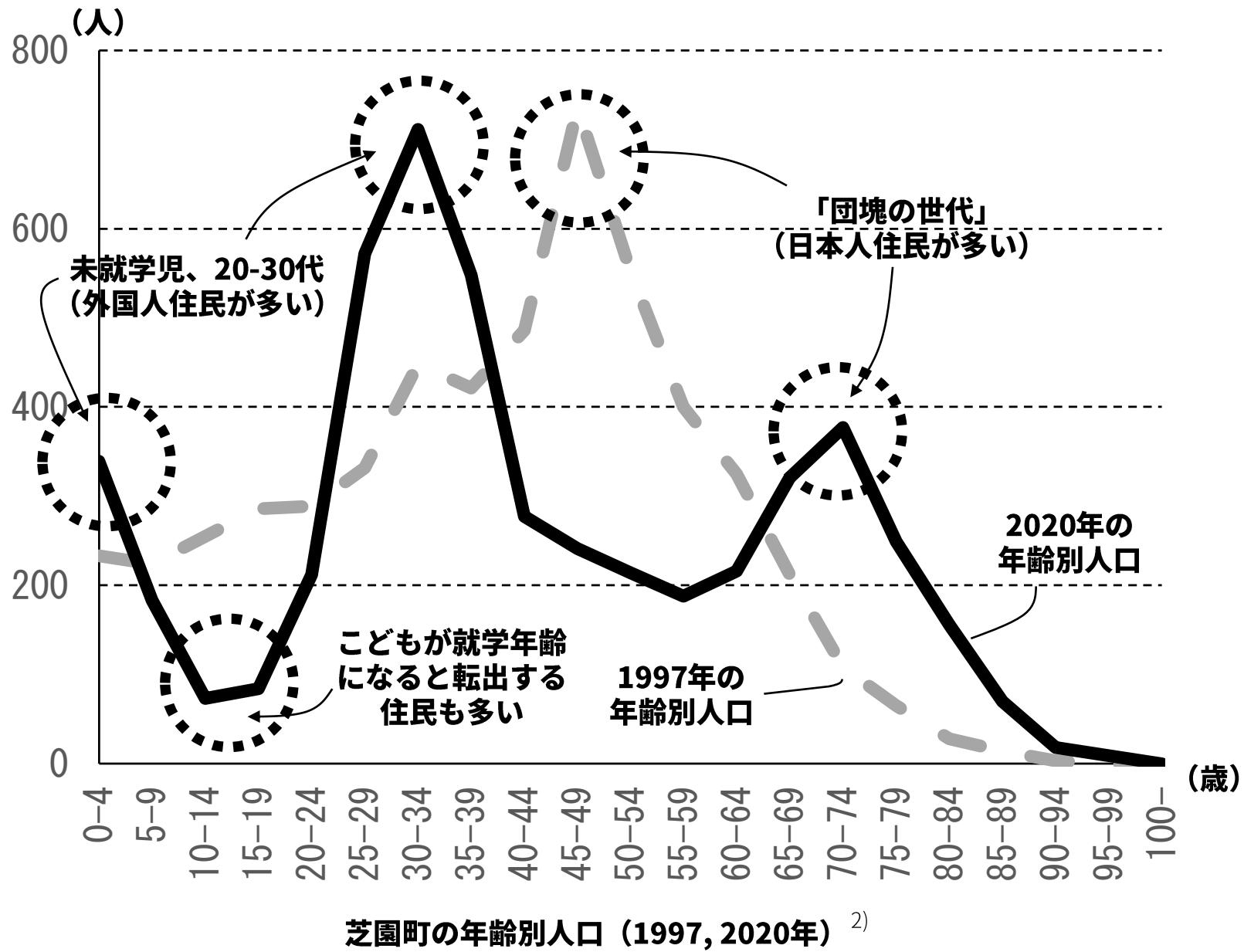


東京方面

蕨駅 (JR京浜東北線) 徒歩10-15分、1978年竣工、総戸数2454戸、UR賃貸住宅

© Google





外国人集住に伴う課題：住環境とコミュニティ

① 文化・生活習慣の違い

- ごみ出し、生活音、香辛料のにおい、…
- 文化だけでなく、
 - ・生活ルールを知る機会の不足
 - ・コミュニケーション不足
- も要因
- もともと住んでいた日本人住民には「住環境の悪化」と認識



外国人住民への誹謗中傷のかかれたベンチ
(2015年以前)

② 住民間の接点不足

- 言語の壁、ライフステージの違い、賃貸住宅という環境
- 「コミュニティの希薄化」を加速

さらに

③ 自治会の弱体化

- 会員の減少と高齢化
- 課題解決を担う主体は十分でなかった

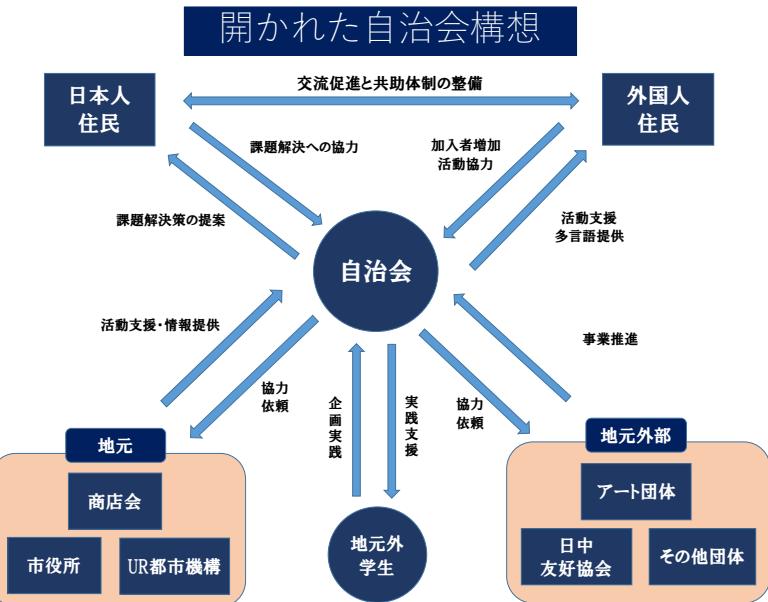
まちづくりのきっかけ：「開かれた自治会構想」

① 2010年頃～：トラブルの深刻化と対応

- 2011年、自治会・住民が、URと市に、高齢化と外国人増加に伴う課題解決を要望
- UR管理サービス事務所に通訳が設置されるなど、URによる対応がされ、トラブルは減少

② 2014年：「開かれた自治会構想」

- 2014年、現・自治会事務局長の岡崎広樹氏が役員就任
- 自治会は外国人住民との交流を模索
- 「開かれた自治会構想」：住民との関係強化や地域内外の組織との協力関係構築を通じ、住民間の交流促進や共助関係の構築を目指す



開かれた自治会構想（自治会資料より引用）

③ 2015年～：自治会と学生ボランティアの協働

- 「開かれた自治会構想」の一環で岡崎氏と繋がった学生有志が、2015年、ボランティア「芝園かけはしプロジェクト」設立
- 以降、まちづくりは、自治会と学生ボランティアの協働を中心に展開



岡崎氏

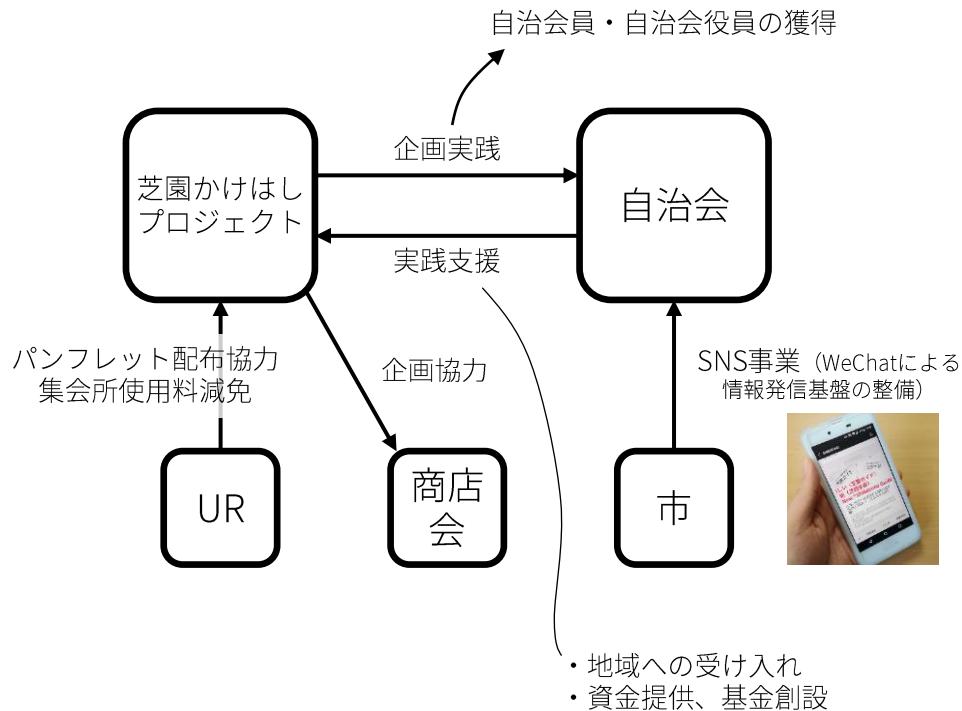


芝園かけはしプロジェクト

「芝園かけはしプロジェクト」

芝園かけはしプロジェクト

- 2015年発足
- 学生ボランティアグループ、任意団体（2021年8月現在、約20人の高校生～大学院生が所属）
- 芝園団地の多文化・多世代の住民がともに安心して暮らせるまちづくりを目指す
- コンセプト：人と人を繋ぐ「かけはし」

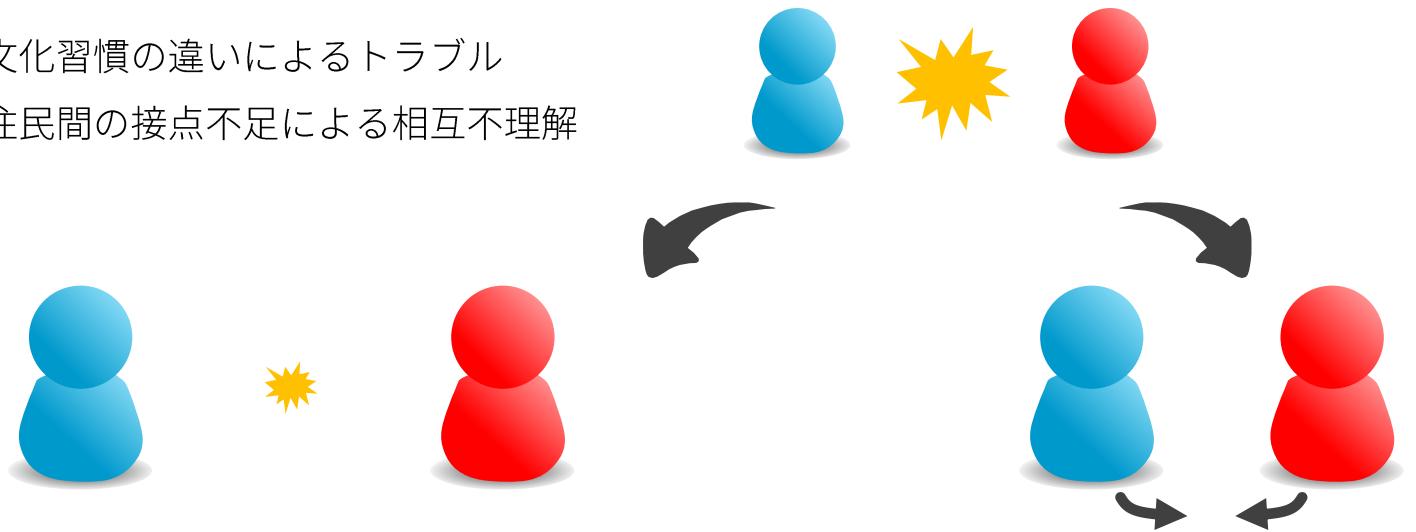


芝園かけはしプロジェクトの主な活動財源

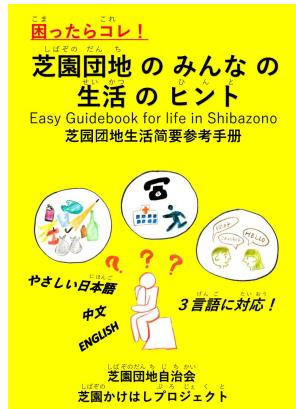
種類	内容
支援	<ul style="list-style-type: none">・自治会による支援 30万円（2016年度）
助成金 (年度単位)	<ul style="list-style-type: none">・中央ろうきん 29万円（2016, 2017年度）・日本財団 Gakuvo Style Fund 30万円（2017, 2018年度）・ハウジングアンドコミュニティ財団 住まい活動助成 76万円（2019年度）
賞金・基金	<ul style="list-style-type: none">・「芝園かけはし基金」：自治会受賞の「地球市民賞」賞金200万円を基金化（2018年～）・「copeみらい地域かがやき賞」賞金 20万円（2020年）・「賀川豊彦賞」賞金 20万円（2020年）

アプローチ：〈問題緩和〉と〈交流促進〉

- ・文化習慣の違いによるトラブル
- ・住民間の接点不足による相互不理解



〈問題緩和〉 アプローチ



生活案内パンフレット

〈交流促進〉 アプローチ



交流イベント

落書き机直しプロジェクト (2015年)



外国人住民への誹謗中傷のかかれたベンチを交流のシンボルに変える

〈交流促進〉：多文化交流クラブ（2016年～）

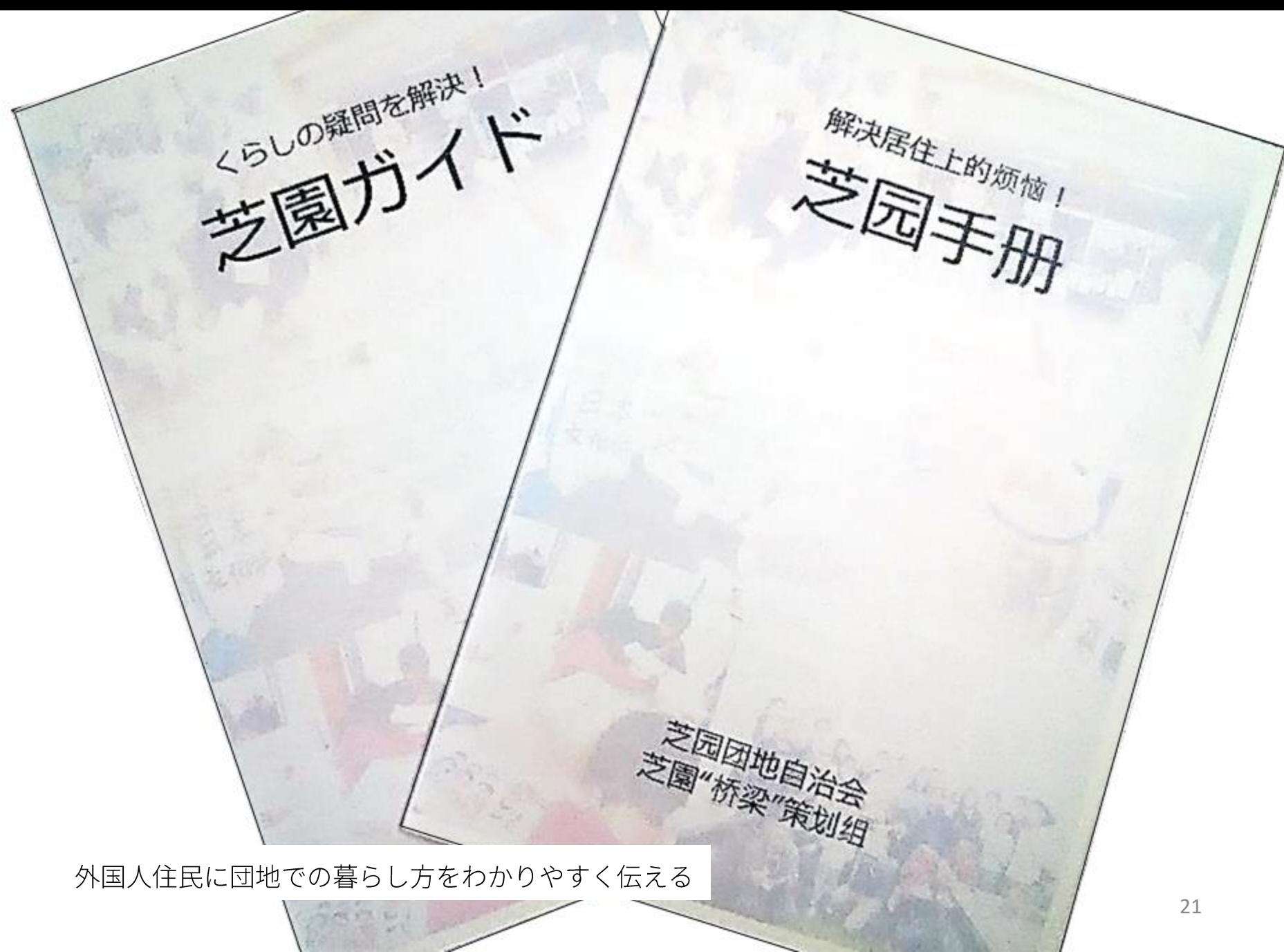


多文化・多世代の住民の交流イベントを定期的に開催



プロセスからの交流：イベント準備のプロセスにも住民を巻き込む

〈問題緩和〉：生活案内パンフレットづくり（2018年～）



外国人住民に団地での暮らし方をわかりやすく伝える

こま
困ったらコレ！

しばぞの だん ち

芝園団地 のみんなの せいかつ ひんと 生活のヒント

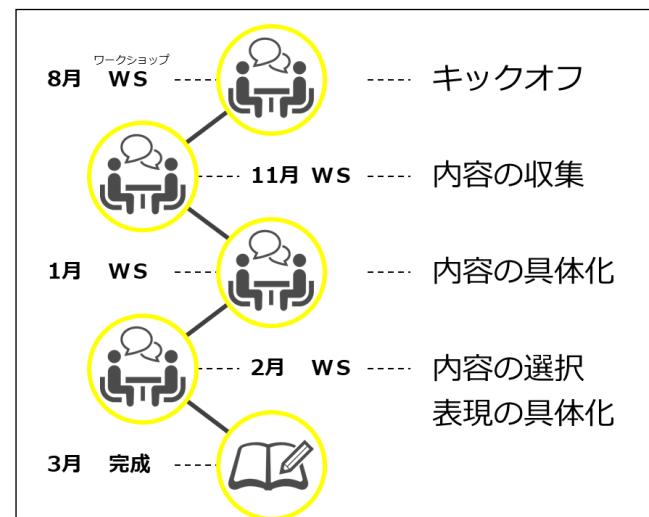
Easy Guidebook for life in Shibazono
芝园团地生活简要参考手册



パンフレットの改訂（2019年度）

- ワークショップの実施
 - ・ 内容と表現の充実
 - ・ 対話の場
 - ・ 住民視点のまちの課題を発掘
- 「外国人住民向け」から
「芝園団地の住民全体向け」へ

ワークショップの工程



もくじ 目次 / contents / 目录

困った時に相談や連絡をする場所

Where to go for advice and contact when you have a problem
当你遇到问题时，可以去咨询的场所



生活で困った時は、「自治会」に聞きます

Consultation about daily life : The resident's association
日常生活的咨询：自治会



家や部屋のことで困った時は、「UR管理サービス事務所」に聞きます

Consultation about housing : UR management service office
住宅咨询：UR管理服务办公室



SNSで情報を見られます

Offering information through SNS
通过SNS获得信息



65歳以上の人ための情報

Supporting info for the Elderly
关于老人的信息



子どものこと

About parenting
育儿信息



日本語がわからないとき

When you don't understand Japanese
不懂日语的时候



あいさつ～エレベーターでの会話

Greeting ~ in elevators
问候～电梯



「やさしい日本語」について

About "easy Japanese"
关于“简单版日语”

p. 03

p. 05

p. 07

p. 08

p. 09

p. 11

p. 13

p. 14



災害が起きて困った時

When you are in troubles because of disasters
受灾而为难时



防災に大切なこと

Important things for disaster prevention
为了防灾重要的事情



緊急の時(何か危険なことがあった時)

Emergency contact
紧急联络

p. 15

p. 17

p. 18



ごみを出すこと

Trash outs
关于垃圾



生活の音

The sounds of daily life
生活的声音



生活の音を小さくする方法

How to reduce the noise
降低生活中的声音的方法



みんなで使う場所(共用部)

About public area
关于公共区域



災害の時に危ないです

Dangerous when disasters happen
灾害的时候很危险



その他の生活の決まり

Other rules of life
其他生活上的规定

p. 19

p. 25

p. 26

p. 27

p. 27

p. 28

対等な関係づくり、悪口大会や修復不能な言い争い、誰もが発言しやすい環境づくりに注意



コロナ禍の取り組み：新たな形式の接点づくり（2020年～）



地域情報紙づくり

- ・「知る」という接点
- ・取材を通じた学生と多様な主体の関係構築

ひと 今回は、新都アジア物産店主の
金城春子さんに話を聞きました。

● プロフィール 2001年に来日。

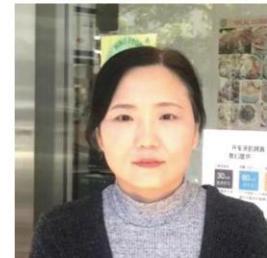
芝園団地では2015年から営業。東アジア、東南アジアの食材を仕入れ、豊かな食文化を届けています。当初、来店客は外国人住民がほとんどでしたが、現在では100円コーナーの設置や海外食材の調理方法の解説を積極的に行って、日本人のお客さんも増えてきました。地域があってお店があると考えているので、地域と商店街でもっと交流があるとよいと思っています。当店は食文化から交流出来ればと考えています。今後より親しみを持ってもらえるよう地域に貢献していきたいです。

● 金城さんに質問

1. 芝園団地に来て印象的な出来事 商店街で開催したふるさと祭りやハロウィンイベントが印象に残っています。またできる日を楽しみにしています。

2. 今、地域に必要なこと 地域の方々との交流が生まれる機会があったらよいと思っています。外国人のお客さんの話を聞くと、日本語を学ぶことや子どもの進学で困っている人が多いように思います。日本のコミュニティに馴染めるようなサポートがあるとよいと思います。

● 読者へのメッセージ 新都アジア物産は、メインが東アジア系の物産になっています。このような時期なので、当店の商品で少しでも旅行気分を味わって貰えたら嬉しいです。



新都アジア物産 店主

きんじょう はるこ

金城 春子 さん

We interviewed Kinjo Haruko-san, shopkeeper of "Shimto Store".

● **Profile** Kinjo-san came to Japan in 2001. She has been operating Shimto Store in Shibazono since 2015. Shimto Store lays in ingredients from East and Southeast Asia and delivers rich food culture. When the store first opened, most of the customers were foreign residents, but now the number of Japanese customers has been increasing, by setting up 100-yen corners and actively explaining how to cook overseas ingredients. I believe that a store exists because of the community, so I hope there will be more interaction between the community and the shops. We would be happy if we could interact with the community through food culture. We would like to contribute to the community so that people can become more familiar with us in the future.

● **Questions to Kinjo-san**

1. Impressive episode in Shibazono Furusato (hometown) Festival and Halloween event held at Kawaguchi Shibazono shopping mall are impressive. I'm looking forward to doing them again.

2. What the community needs now? I would like to have the opportunity to interact with the local community. When I talk to foreign customers, I find that many of them are having trouble learning Japanese or educating their children. I think it would be great if there was support to help them fit in the Japanese community.

● **Message to the readers** The main products of Shimto Store are East Asian products. It is such a time now, so we hope our products will make you feel a little like you are traveling.



此次我们采访了新都物产店主金城春子女士。

● **简介** 金城女士2001年到了日本。新都物产店从2015年开始在芝园团地营业。物产店引进了东亚，东南亚的食材，传播了丰富多彩的饮食文化。虽然当初来店的顾客大部分是外国居民，但是自从设置了“100日元柜台”，并且积极地说明解释海外食材的烹饪方法之后，渐渐地日本顾客也变多了。因为金城女士考虑到这是地区中的一家店，所以希望能和本地居民和商家有更多的交流。她觉得如果能从“饮食文化”为切入点开始交流的话，也许是个不错的主意。今后也想为地区做贡献，让大家的关系更加亲近和谐。

● **对金城女士的提问**

1. 来到芝园团地后印象深刻的事 商店街举办的“故乡庆典”和万圣节活动给我留下了深刻的印象，很期待下次举办。

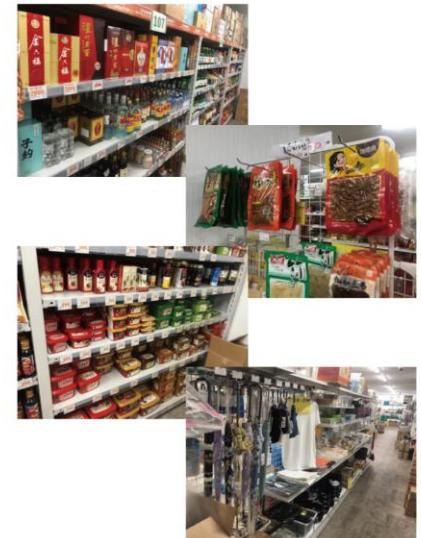
2. 现在地区需要做的事情 我希望地区内可以多一点当地人互相交流的机会。我从外国客人那里听说，貌

似有很多人都因为日语学习和子女的升学问题而在烦恼。我觉得有能帮助他们适应日本社会的服务支持就好了。

● **给读者的话**

新都物产店主要经营东亚地区的物产。正因为是现在（疫情蔓延）这样的时期，我会很乐意您能在挑选本店的商品时稍微体验一下旅行时的感觉。

(取材日：2020年10月25日)



感想や要望 も、お気軽にご連絡ください。 /
Please feel free to let us know **your impressions and requests**. / 若有**感想或要求**，请随时联系我们。

→ 発行：芝園かけはしプロジェクト
Publisher: Shibazono Kakehashi Project
发行：芝園桥梁项目

✉ shibazonogakusei@yahoo.co.jp



まちづくりの成果と課題

成果	課題
<p>① 住民間の接点創出と相互理解</p> <ul style="list-style-type: none">- 交流イベントにはのべ1000名以上の参加者- 住民同士のコミュニケーション、態度の変容 <p>② 外国人住民の地域社会への参加</p> <ul style="list-style-type: none">- 外国人住民の自治会員、自治会役員の増加 <p>③ 生活を支え、豊かにする場</p> <ul style="list-style-type: none">- 「子どもを楽しませたい」「日本のこと学びたい」「友人をつくりたい」(外国人住民) <p>④ トラブルの減少</p> <ul style="list-style-type: none">- (取り組みの効果か判断できないが)自治会やUR管理サービス事務所へのトラブル関連の苦情が減少 <p>⑤ 地域イメージの向上</p> <ul style="list-style-type: none">- 各種賞の受賞	<p>① 住民間の接点創出の限界</p> <ul style="list-style-type: none">- 交流イベント：日本人住民が比較的少数- ワークショップ：外国人住民が少数 <p>② トラブルの減少の限界</p> <ul style="list-style-type: none">- トラブルはゼロになる訳ではない <p>③ 多様な主体の連携が必要</p> <ul style="list-style-type: none">- 住民視点で暮らしやまちの課題を捉え直すと、<u>さまざまな課題</u>が見つかる<ul style="list-style-type: none">「気軽に立ち寄れる場所」「子育てするための情報や場所」- そのような課題を発見し対応していくために、多様な主体の連携が一層重要  <p>喫茶店が閉店</p>

住民間の接点創出のあり方

住民の交流の実態と意識

- 日本人住民は、国籍に関係なく、他の住民との交流が希薄。外国人住民との交流は、より消極的。
気軽に立ち寄り、他の住民と交流できる場所を持たない住民も多い（診療所や喫茶店がなくなり、一層心配）。
- 外国人住民は、他の住民との交流に積極的な住民も多いが、孤立傾向の住民も少なくない。
屋外空間で交流をしている住民が多い。

※日本人住民と外国人住民の交流に対する意識の違いは、他の団地での調査でも同様の結果が見られる。³⁾

接点創出のあり方

- 「接点創出の価値」と「他の住民との関わり方に対する多様な態度の存在」を前提とする必要
- 関係性の持ち方の選択可能性を確保することが重要



対話の場づくりのあり方

生活案内パンフレットづくりワークショップ

- 多様な住民が参加し、対等な立場で、安心して発言できる場づくりを目指した

① 多様な住民の参加促進

- 多様な住民を歓迎し、情報を届ける
(多言語の告知、情報発信手段の検討等)
- 参加の障害の点検 (ワークショップの時間や場所等)

② 対等な関係づくり

- 「共通の立場」の強調
- 他者を理解し尊重できるファシリテーション

③ 安心できる環境づくり

- 対話のルールの共有や問題回避のファシリテーション
(悪口大会や修復不能な言い争いの回避)

④ 誰もが発言できる環境づくり

- 表現や発言の方法や形式への配慮
(多言語対応、イラスト活用、ワークショップの形式の検討等)



「においは仕方なくて、魚のにおいが嫌な人がいるかも」
「何を食べているか知れたら楽しい」

参考文献

- 1) 川口市ホームページ 町丁字別人口世帯数の推移 <https://www.city.Kawaguchi.lg.jp/soshiki/01020/010/toukei/12/2733.html> 最終閲覧 2020年4月9日
- 2) 川口市ホームページ 町丁字別年齢別人口 <https://www.city.kawaguchi.lg.jp/soshiki/01020/010/toukei/12/2734.html> 最終閲覧 2020年4月9日
- 3) 池上重弘, & 福岡欣治. (2005). 外国人居住者は地域コミュニティの担い手となり得るか?: 焼津市 T 団地での調査から. 静岡文化芸術大学研究紀要, 5, 1-12.

第III部 包摂・統合・共生の概念整理

社会的包摶 (social inclusion) の定義¹⁾

- 社会的排除 (social exclusion) への関心から生まれた概念

- ・個人が、経済的、社会的、政治的、文化的生活に十分に参加できない状態、およびそこに至るプロセス。
- ・物質的な剥奪に限らない多次元的な現象。物質的資源やサービスを利用できない場合、人々が発言力行使できない場合や相互に交流できない場合、人権や尊厳が平等に尊重され保護されない場合。

- 定義

- ・年齢、性別、障がい、人種、民族、出身、宗教、経済的その他の地位に基づいて不利な立場にある人々が、機会の拡大、資源へのアクセス、発言、権利の尊重を通じて、社会への参加の条件を改善するプロセス。
- ・目的でありプロセスである。

社会的包摶 (social inclusion) の起源^{2), 3)}

① 1970年代のフランス (社会活動担当国務長官René Lenoirの言説)

- 18世紀啓蒙主義以来、国民の連帯を重視。1970年代の失業率上昇を背景に、社会的結束の崩壊が懸念（当時、完全雇用が目指され、給与関係が社会的市民権の基盤）。
- 当初、社会的排除＝「労働市場への参加が少ない」を意味。

② 1980年代末の欧州共同体 (EC)

- 新自由主義の台頭を背景に、貧困より社会的排除（労働市場から離脱、…）に注目。意味が柔軟で、さまざまな政治的立場で受容。
- 各国の政治的文化的文脈で意味が広がる。

③ 1990年代の国際労働機関 (ILO)

- 低所得地域の援助・開発政策に導入。貧困や剥奪を多次元的に理解し、新たな政策の方向性を得ることを期待。

社会的統合 (social integration) の定義

- 「統合」は「外国人（とみなされる集団）」に関わる問題と広く認識。⁴⁾
- いくつかの定義
 - 少数派のグループが、社会の主流と（非強制的に）一緒になったり、組み込まれたりする状況。また、意味、言語、文化などのシステムを共有することに大部分が合意するプロセス。⁵⁾
 - すべての人が権利、平等、尊厳に基づき、社会的、経済的、政治的生活に参加できるようにする価値観、関係、制度を促進するプロセス。⁶⁾

社会的統合 (social integration) の起源 - Durkheimの理論 -^{5), 7)}

- Emile Durkheim (仏、1858-1917)
 - フランスの社会学者。現代社会学の創始者のひとり。社会的統合の概念を探究。
- 集合意識 (collective consciousness)
 - 世界を理解し行動するための共通の方法
 - 人々の規範、信念、価値観を通じて形成
 - 個人を結び付け、社会的統合を生み出す
- 連帯 (社会的統合の方法として)
 - 機械的連帯：親族関係や共通の信念。近代化の過程で弱まる。
 - 有機的連帯：より高度な社会における、複雑な分業での相互依存関係
- アノミー
 - 社会的統合の欠如は、アノミー（無規範状態）や紛争に繋がる



Emile Durkheim (wikipediaより)

社会的統合 (social integration) の起源 - 移民の文脈 -

8), 9)

- 米国の「同化」、欧州の「統合」は、移民とその子どもがどのようにホスト社会の一部になるか説明する概念

	米国の「同化」	欧州の「統合」
背景	<ul style="list-style-type: none">・シカゴ学派社会学の同化理論 (Park & Burgess 1921; Park 1930)・19世紀から20世紀初頭の欧州系移民の経験・欧州系移民の文化的特徴は社会的結束の脅威とは認識されず	<ul style="list-style-type: none">・20世紀後半の非欧州系移民の増加・「並行社会」シナリオに並置されて「統合」に言及される・福祉国家の伝統
考え方	<ul style="list-style-type: none">・移民やその子どもがホスト社会の「主流」に似てくること・社会的、経済的、文化的、政治的側面がある・民族コミュニティは、経済的に成功した「同化」の足掛かりとして評価	<ul style="list-style-type: none">・(最低限の) 文化的同質性という暗黙の前提、民族コミュニティは積極的に評価されず・不平等の克服のため、教育の成果や労働市場へのアクセスなどに着目

まとめ：包摂・統合・共生の比較

- いずれも、不利な立場にある人々が、社会への参加の条件を改善するプロセス、あるいは、目的となる、改善された状態、を示す

	側面				主な地域	着眼点等
	社会	経済	政治	文化		
包摂	○	○	○	○	世界	
統合	○	○	○	△	欧州	・ 少数派が主流と一緒にになったり、組み込まれたりする状況
共生	○	○	○	○ (理念的)	日本	・ コミュニティが強調され、ときに、根本の制度変革の視点は弱い

参考文献

- 1) United Nations. (2016). Report on the World Social Situation 2016 - Leaving no one behind: the imperative of inclusive development
- 2) Allman, D. (2013). The sociology of social inclusion. Sage Open, 3(1), 2158244012471957.
- 3) Jane Mathieson, Jennie Popay, Etheline Enoch, Sarah Escorel, Mario Hernandez, Heidi Johnston and Laetitia Rispel. (2008). Social Exclusion - Meaning, measurement and experience and links to health inequalities: A review of literature
- 4) Eve, M. (2010). Integrating via networks: foreigners and others. Ethnic and Racial Studies, 33(7), 1231-1248.
- 5) Study.com. Social Integration: Definition & Theory. <https://study.com/academy/lesson/social-integration-definition-theory.html>
2021年8月18日最終閱覽
- 6) United Nations. (2008). Summary of discussions of Expert Group Meeting on Promoting Social Integration
- 7) the Social Sciences Library. 1.2F: Durkheim and Social Integration.
[https://socialsci.libretexts.org/Bookshelves/Sociology/Introduction_to_Sociology/Book%3A_Sociology_\(Boundless\)/01%3A_Sociology/1.02%3A_The_History_of_Sociology/1.2F%3A_Durkheim_and_Social_Integration](https://socialsci.libretexts.org/Bookshelves/Sociology/Introduction_to_Sociology/Book%3A_Sociology_(Boundless)/01%3A_Sociology/1.02%3A_The_History_of_Sociology/1.2F%3A_Durkheim_and_Social_Integration) 2021年8月18日最終閱覽
- 8) Mary G. Powers. (2013). Assimilation, integration, and incorporation
- 9) Schneider, J., & Crul, M. (2010). New insights into assimilation and integration theory: Introduction to the special issue. Ethnic and Racial Studies, 33(7), 1143-1148.